

11-3 ウエペケレ「ウラユシウンクル」、 ウエペケレ「シリマオツテ」まとめて解説

語り手：平賀サダモ
聞き手・解説：萱野茂

平賀：そっちさ曲げるってや **ponno ku=sini kusu XXX yan** [少し私は休むから **XXX** してちょうだい]

萱野：今のこの **uepeker** [散文説話] の場合はこの生活どれでもそうなんですけども、これ、1つ1つこう、1行1行区切っていくと非常に昔の生活が細かく出ているからね。

平賀：そうだね。

萱野：だからいいよね。

平賀：本当に。

萱野：だからこの最初の10号テープの **uepeker** [散文説話] が32分から続いたのが **Urayusiunkur** [ウラユシの人]。この **Urayusiunkur** というのは喋っている主人公は **Iskar hontomo** [石狩川中流] の人で、**Urayusiunkur** の動きをこう書いた、書いたというか、喋ったあれでしたね。

平賀：そう。仇を取る。

萱野：でこれも非常に筋書きが良くてその **Iskar hontomo** におったわたしのところへ隣村におったといわれる **Urayusiunkur** が訪ねてきてくれて、**uymam** [交易] といういわゆるその、シャモのところへ交易に行くその時、その交易に始終行っておるんで「一緒に付いて行ってくれ」と言われたんで一緒に付いて行って、たくさんそのいろいろな物をもらってまあ、取り替えて持ってきた。そしてその **Urayusiunkur** という人が自分の村へ帰ったら、毒を飲まされて、その殺されたと。

そこへその **Iskar hontomo** の人が行って、その原因を訊いたらまあ、妻の方、妻が毒を盛ったんだと。そういうことなんか分かったので、まあ皆かたき討ちに殺そうかとしたんだけど、夢枕に立ったその **Urayusiunkur** というこれ、ウラユシというところにいた人という意味です。 **uray** [やな] **us** [～がある] **un** [～にいる] **kur** [人]。そこで住む人。

その **Urayusiunkur** が夢枕に立って「わたくしはその人間の子どもではなかったんだと。 **payokakamuy** [流行病の神様] といって病気の神様が村の上を通った時に、わたくしの母のおる家の屋根の上に休んで下を見たら綺麗な女がおったので『こういう女、神であれば妻に娶ろうものを』というのを考えただけで、それでそのいわゆる懐妊したと。それによって産まれたのわたくしであったので特別その器量もよくなって、どんなことでも上手であった」ということなんか夢枕でわかったので、直接その自分では何もしなかったけれども、かたき討ちとかその **pakoyan** [伝染病が上陸する] まあ病気が来てその村全滅したというのが **uepeker** [散文説話] の 32、10号テープの 32、2分から、11号テープの 10分までの筋書き。

えー、それから 10分はこちらの方の **Sirmaotte** という、いわゆる昔、アイヌ語で言えば **sikesarkur** [乱暴者] だな？

平賀： **sikesarkur** これ……

萱野： **sikesar**、**sunke caranke** [嘘の抗議]

平賀：何ちゅうべ **sisam itak** [日本語] で **sunke caranke**

萱野：何というかその、

平賀：人をごまかして、物を奪い取る奴

萱野：そうそう、人をごまかすというその **sunke caranke** って嘘の言いがかりを付けて人から物を取る、のがまあ商売ではないんだらうけど、そんなようにしてた **Sirmaotte** というのがその神様から罰せられて、何ていうか、ある日のことまだ [また] 隣村へ嘘の言いがかりを付けに行こうとして、え……通って行ったら 1人の綺麗な女が道路のへりにこう休んでおった。

着ておる厚子が非常によく見えたので、わざとその、その村へ到着したらば、それを言いがかりにしようとして「あんたちよっという着物だから私のこの上に着ている着物と取り替えてくれないか？」と、言う
と、それが、うんその女がその着物を脱いでよこした。それを着て歩いていると、だんだんだんだんよく見るとそれが自分自身キツネになっていたと。

そしてキツネになっていたということはそのキツネから着物を借りたというような、これも童話というよりも昔の生活の中でこういうこともあったなんて非常におもしろいんだが、そんなようなこと、それから、そのキツネにはなったんだけども精神だけは人間なので、ある大きなナラの木の側へ行って寝て「ナラの木の神様や、もしあんたが私を元に戻してくれなければ、ここでそのまま死んで腐って、その匂いがあんたの……、に巻きつくと、他の神様もあんたのところに来てくれないだろうし、どんな神様も近寄ってくれないぞ」とその脅かしたらその……、脅かしというか、まあそういうこと心の中で願いながらそのナラの木の側で寝たら夢枕にまだ〔また〕ナラの木の女神が出てきて、「この悪さをするアイヌめ！」というわけで、その叱られながらだけれども元の姿に戻ったというのがこの、10分から11号テープの10分から後ろのほうの **Sirmaotte** という **uepeker**〔散文説話〕の筋書きでありました。

平賀：へったくそでも、かまんして（我慢して）入れとくべし。

mak a=ye hawe〔しょうがない〕 **uepeker**〔散文説話〕だよ。

萱野：はいよ。